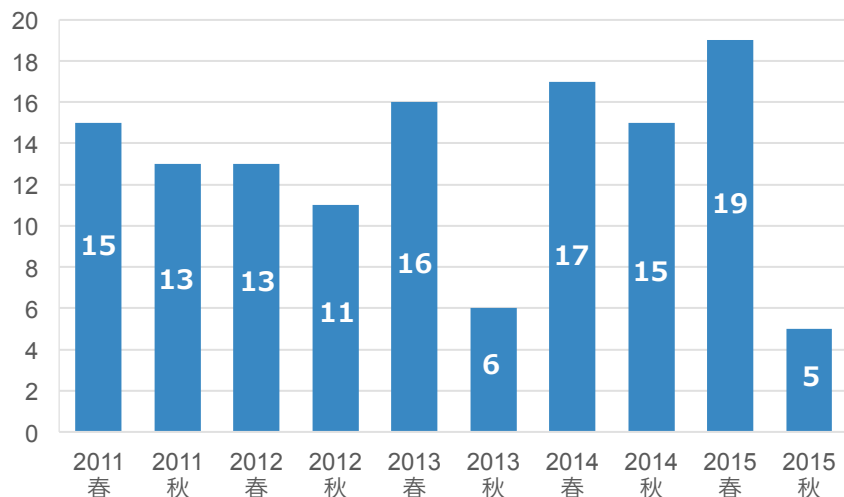


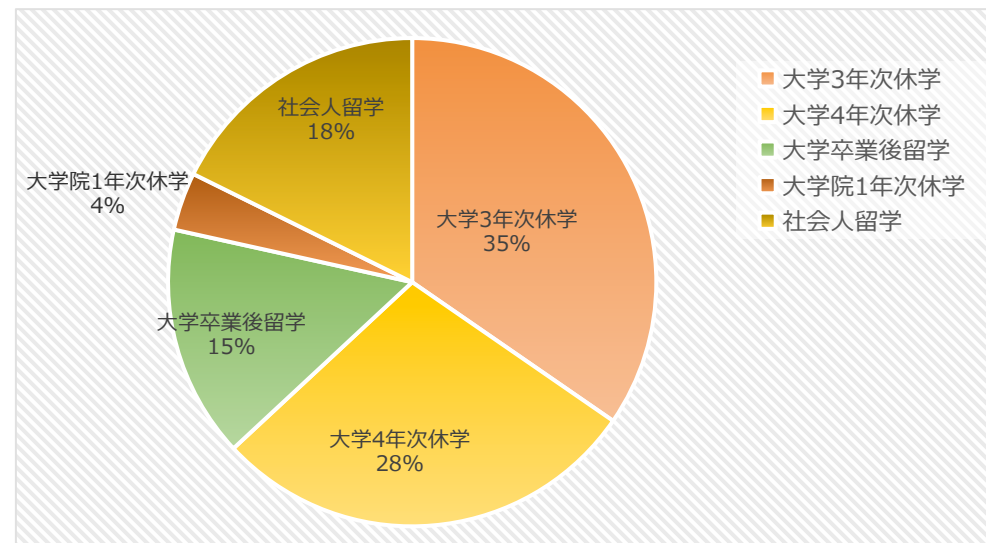
アンケート対象	2011年春～2015年秋の出発者（IBP44期～53期）
アンケート実施期間	2016.12.28～2017.01.15
回答数	130名



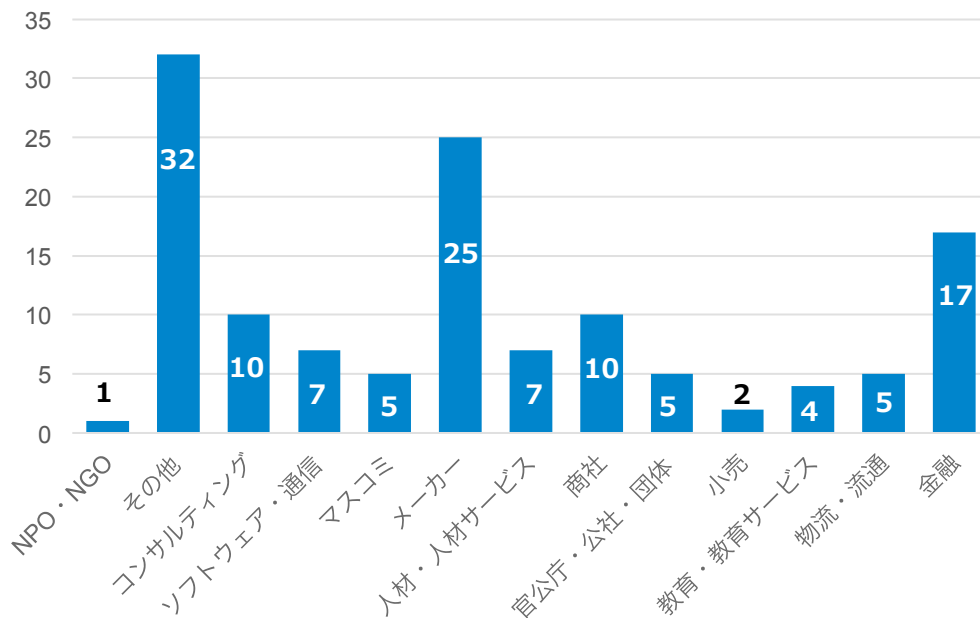
Q. 留学時期を教えてください。



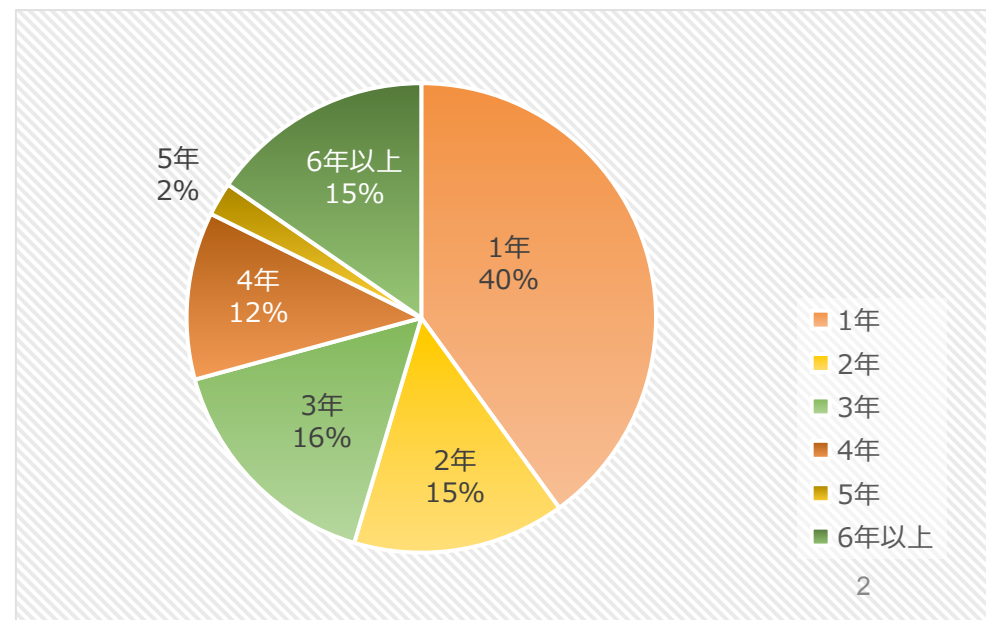
Q. 留学出発時のステイタスを教えてください。



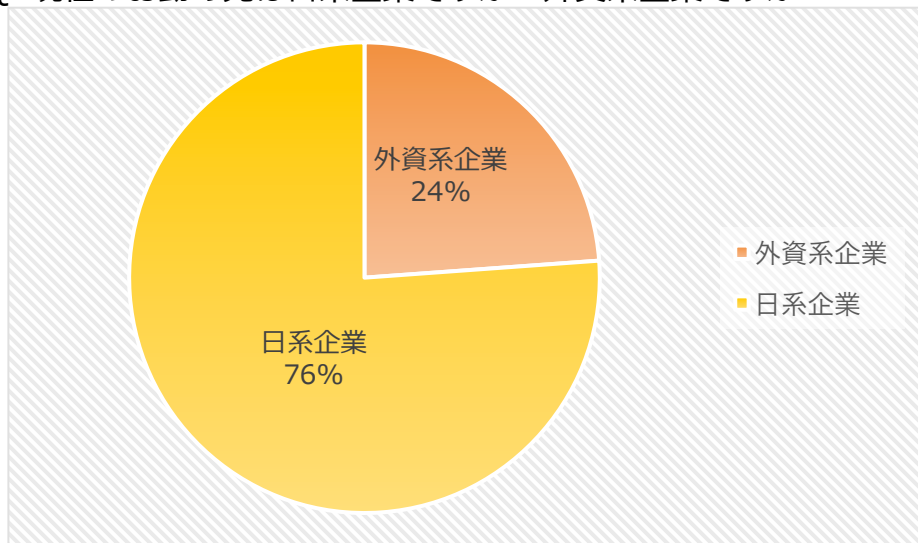
Q. 現在のお勤め先の業種を教えてください。



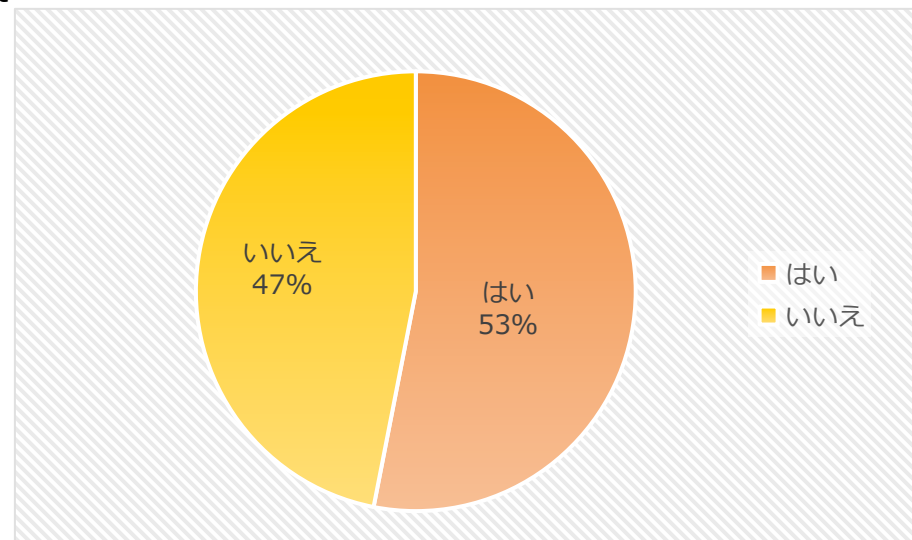
Q. 現在、社会人歴何年目ですか？



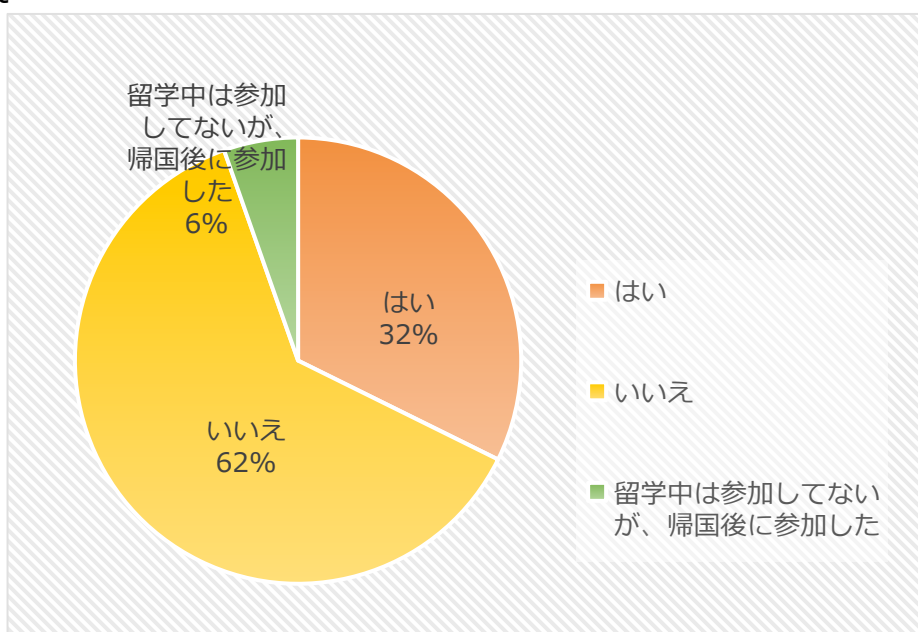
Q. 現在のお勤め先は日系企業ですか？外資系企業ですか？



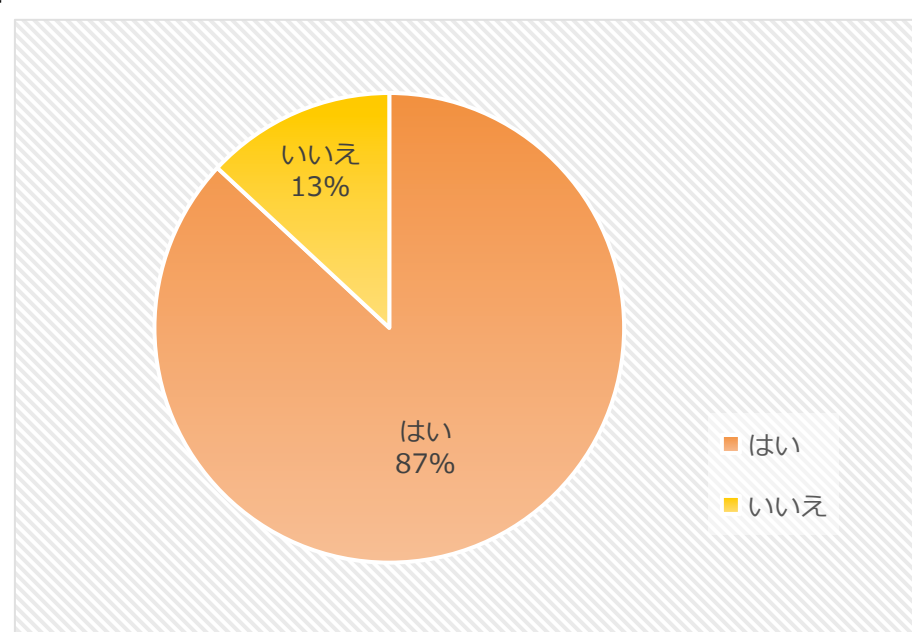
Q. 留学中に就職活動をしましたか？



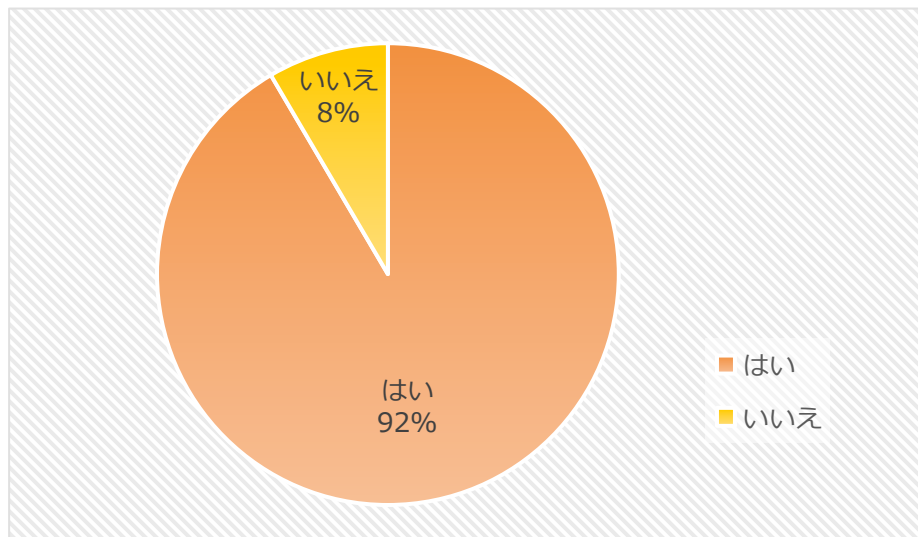
Q. 留学中にボストンキャリアフォーラムに参加しましたか？



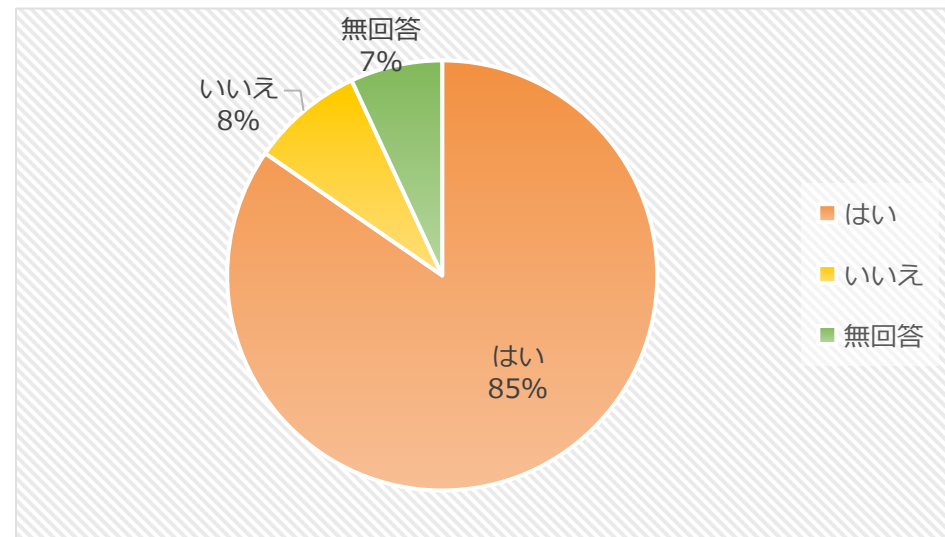
Q. 就職活動の際に、留学の経験を自己PRとして活用しましたか？



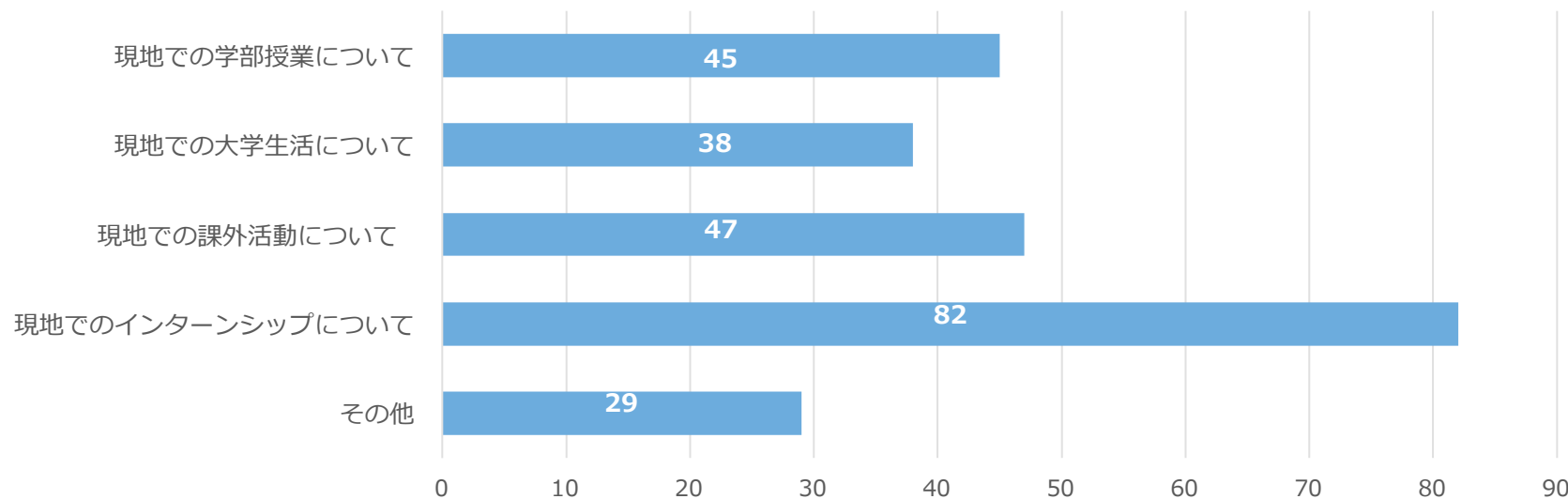
Q. IBPの留学経験は、就職活動の際に活きましたか？



Q. 「はい」と答えた方：面接で留学の話はしましたか？



Q. 「はい」と答えた方：面接で話しをした内容は何ですか？（複数回答可）



Q. 就職活動の中で留学経験が活かしたエピソードがあれば教えてください。（300字程度）

留学中、“オンライン英文添削のスタートアップ” SEOのコンサルティング会社でインターンを経験したことが就職活動に活かしました。具体的には、最終的に「海外で教育関連の事業を起こしたい」という目標から逆算し、スタートアップで求められることやマーケティングの実務を自ら行動して経験しにいった自主性や行動力を高く評価されたと思います。自分の目標達成や課題解決のために、海外の地でもフルに行動できる力が他の学生との差別化や自分のユニークさに繋がったと思います。

就職活動をする上で、まずTOEICスコアの規定があり、留学後にスコアアップしていたことが活かされました。また語学力を高く評価され、仕事でも大いに役立ちました。面接では留学経験を聞かれることが多く、授業で取り組んだことや、ボランティア、インターンシップの経験、ホームステイの事などを話しました。また単に経験だけでなくそれを通して何を学んだか、が大切だと思いました。私はどんな場面でも諦めずコミュニケーションを大切に取り組んできたこと、多様な人種の中で日本人として積極的に活動した点がその後の社会人生活の中で、業務だけでなく周囲との人間関係づくりでも活かされていると感じます。

IBP生が過去に設立したArch For Startupの課外活動を通じてシアトルのStartup事情やエンジニアとしての働き方について学べたことなどは面接の際の雑談として盛り上がりました。

留学先で入ったラグビーチームの方々との交流。アメリカで働くという目標に対してどのようなアプローチがあるかを考えさせられ、日系メーカーという選択肢ができた。

留学先でのインターンシップの経験について。主な業務内容は農業だが、各国のインターンが参加しており、その中でもヴァイスインターンとして、職務を全うするに至った過程について話した。

・単なる語学留学ではなく、ビジネスに特化した留学だったこと ・海外の現地企業でインターンする際、アプライからインタビューまで全て自分で行い、そのポジションを得たこと ・インターンでなにを目標にどう行動したか、そのプロセスに重点を置いて話をし、結果的に目標を達成できたということ話をすることで、自分で立てた目標に向かって着実に努力することで、成果を残すことができる人間であるということアピールする良いエピソードとなった。

社会人経験と留学中のインターンシップの経験を合わせて、新しい会社ではバイリンガル対応もできるようになった話をした。

ボスカリに参加して、気になる会社以外にもエントリーして可能な限り多くの面接をしたので、本番の就活(帰国後の日本での就活)の面接でいい意味で全く緊張せずできた。そのおかげで、5社くらい内定を頂くことができた。 自慢できるような留學生活ではなかったが、言い方次第で、面接官の注目を引くことができた。  
\* 上の設問で、社会人1年目にチェックを付けましたが、現在4大学年生です。

授業で苦労した話 あとは日本語のボランティア活動

転職だったので面接では主に前職でのキャリア・培ったスキルを中心に話したが、英語力が必須の会社ではないため留学経験・TOEICスコアがプラスに評価されたと思う。

Q. 就職活動の中で留学経験が活かしたエピソードがあれば教えてください。（300字程度）

映画のPR会社でのインターンシップについて話し、現在勤めている会社はテレビ番組の販売及び映画の配給も多少ではあるが扱っているため、興味を持ってもらえた。番組販売は海外へ向けてのセールスとなるため、かなり活きていると思う。

度胸がつき、楽しんで面接ができた。履歴書やエントリーシートに書く内容に困らなかった。面接で留学のことに興味をもってもらい、現地でのカルチャーショックやエピソードなどの話をしたところ、場が和んだりいい雰囲気でも面接ができた。

幅広い人種の人たちと繋がりを持てた事を生かし、面接では柔軟性のある人間だと言う事をアピールできた。また留学中に起こった面白い話等、日本ではない文化の違いなど、見聞の広さ・寛容さもアピールできたと思う。また、大学だけでなく現地で働いた経験を話せるのは強みだった。

・そもそも、なぜ留学をしようと思ったのか。その理由がしっかりしていること。 ・留学を語学学校のみでなく、学部授業も受け現地のコミュニティに入り込んでいたこと。 ・インターンにおいて、自分の仕事内容と立ち位置。インターンでやっていたことへのエビデンスを残してあること。 ・外国人の彼女を作った話。

どの企業でも聞かれる「学生時代頑張ったこと」について、留学中に現地で行っていた「学生向けの社会人をお招きした講演会」の話をしていました。海外ならではの日本人のコミュニティを駆使して動けたので、行動力と問題解決能力、コミュニケーション能力を評価していただけたのかなと思っています。

インターン先で実際に働いてみたことで、「期限を必ず守る事」「分からないのに分かったふりをしない事」など社会人として基本となる事柄に価値を置きながら、業務を遂行する能力があるとアピールできた。

ジェットロンドンと現地公的機関でのインターン経験をメインに話しました。共に、スキルアップできたことに加え、多様性の中で働く上での重要なこと、自身のキャリアの目的に対する根拠として話をしました。

学部授業、異文化交流及びインターンの経験等。

新たな教科（植物学）を勉強してみて、非常に視野が広がった。新しい領域に入る上での自信に繋がり、就職でも新たな領域に入る決心がついた。

自分が主催したラーメンづくりイベントに100人集めたこと。0から一人で企画すること、価値観の違う多くの国の人を楽しんでもらえるようなイベントを作ることの難しさを乗り越えた話をした。

そもそも英語の面接がある会社の選考を受けられたのは、留学のおかげです。

単なる留学だけではなくインターンシップもついているというエピソードが良かった。また当時インターンシップ後に現地で起業をしようとして失敗したエピソードもその失敗から学んだことを交えて話すと印象が良かったように思う。

インターンでの自身の役割や、学び、経験から得た目標など。

海外でのインターンシップ経験によってガッツや英語力を伝えられた。

英語が得意分野として話せるようになったのは大きなメリットだと感じました。



Q. 就職活動の中で留学経験が活かしたエピソードがあれば教えてください。（300字程度）

今は記者をしています。インターン先の職種も記者だったので、自分がこの仕事に向いているのかどうかを経験から説明ができました。結果的に説得力のある説明ができたと思います。インターンの経験を全面に押し出すというわけではなく、一つの話題として、シアトルの新聞社での経験を伝えるように心がけました。最初はインターンの経験をメインに話していましたが、数か月の経験を話したところで、面接官は何十年と記者をしていた人たちです。いかにインターンが素晴らしい経験だったとしても、だから何、となるだけだと、就活をしながら感じてからは、記者という職業で私はミスマッチは起きないということを伝えるツールとして伝えていました。

外資系企業の英語面接などに物怖じせず挑めたこと。

一般企業でインターンを経験していたこと

インターン期間の話はどの面接官にも好印象で積極的に話を聞いてくれた印象。

あるハーブに興味があり、留学中の空き時間に調べたり、学部授業のテーマでもその内容を絡めたリサーチや発表を行いました。その時得た知識が次の職場に活かしています。

社会人で留学したため、留学経験よりも過去の職歴やスキルの方が注目されていたと感じています。

多くの新しいコミュニティに飛び込んだり、自分を試される場があったことから培えた物怖じしない精神面での強さ

留学中に何度も英語のレジュメ作成の練習をしたことは帰国後外資系企業への就職に役立ちました。帰国後一から英語のレジュメを作成する必要がなかったのですぐに転職活動に入ることができました。

留学生を採用したい企業だったので、役に立った。

・寮生活で、トラブルを乗り越えたこと ・インターン先で、自分の仕事を得るために交渉したこと ・学部授業で、クラスメイトと一緒に課題に取り組んだこと

私の場合、インターンシップ先で現地就職することができました。その時の面接官がIBPの卒業生で、授業での苦労をどうやって乗り越えたという話に共感を持ってもらうことができました。

海外インターンシップで、異文化の中で目標達成の為に周囲を巻き込みつつ主体的に行動した経験。

帰国時大学4回生の春だったので、急いで就職活動をはじめました。始めたばかりのころは、書類選考は通るのに面接で落とされるということが続き、大学の就職課に相談したところ、私が面接で話している、アメリカでのディベートの経験などは、日本の会社では評価されない（協調性がないと思われる）などと言われてとてもショックだったのを覚えています。その後は、日本的な会社は応募をあきらめ、外資や比較的新しい会社に絞って応募し、就職が決まりました。留学経験は間違いなく就活に活かしますが、自分が考えている以上に、日本の会社はまだまだ保守的だということも頭にいれておかなければならないと思います。

Q. 就職活動の中で留学経験が活かしたエピソードがあれば教えてください。（300字程度）

多くの企業で、これまでで最も大きな挫折は？という質問を受け、挫折は特にありません、ただ1番自分の存在価値が無いなと感じたのが留学初期でしたという話をしました。留学生活はもっとキラキラしたものだと思って希望を持って渡航したが、英語もろくに喋れず、友人の冗談にも分かったふりをして笑うしかなかった初めの数ヶ月は人生で一番惨めな思いをしたと思います。そんなコンプレックスを抱えていた中、外国人の友人に「ごめんね英語が下手で」と言ったら、「ちゃんとやりたいこと 伝わってるよ」と返され、その時から、恥ずかしくて惨めでも伝えていこうという気持ちに切り替えられたという話をしました。

大学授業のディスカッションで、ネイティブ同士の会話が早すぎて聞き取れず困ったが、そこであえて書記を申し出ることで、書きながら内容を聞き返す時間を作り、自分も会話についていけるよう努力をした。困難にあたって、逃げずに何とか工夫して乗り切る力がついたと思う。

インターン結果というよりは、インターンに至ったプロセスを就職活動では活かしたと考える。

留学のエピソードはあえて話しておりませんが、TOEICの点数は感心を集めることが多く、役に立ちました。

国際事業に携わりたかったため、就職でも入社後の配属でも留学経験が有利に働きました。

インターンシップで英語環境の中、積極的にコミュニケーションをとり仕事できたこと。

自己PRを留学中のエピソードと交えて伝えることで、より具体的にまた他の学生と差別化することができ、面接官に分かり易かったと言われた。

留学で身に付けた英会話力を活かし、帰国後すぐ英会話講師の仕事に就けた。現在は翻訳会社で働いているが、その入社面接の際、留学中に翻訳の手伝いをさせていただいた経験が話したことが採用の決め手になった。

留学中に発見した自身の課題を帰国後に解決できたという自己PRに繋げることができた。

留学での苦労や、壁を乗り越えた経験はとても大きな強みになります。同期も多く持つことができるIBPプログラムでは、自分次第、の中でも、なあなあにならず周りと共に切磋琢磨できる環境があり、BCF参加時には15人ほどで業界分析や試験面接対策もしました。〈大学中の留学〉がどんどん普通になり、珍しくない経験の一つとして認識される中、強い目的意識を持って参加することは大きな強みです。言語習得がゴールではなく、英語をツールとして活かし実際にインターンまで経験できるIBPプログラムは大きな差別化になると、BCFや帰国後の就職活動でも強く感じました。

インターンシップで行ったプロジェクトや、困難にどのように対処したか等



Q. 就職活動の中で留学経験が活かしたエピソードがあれば教えてください。（300字程度）

様々な経験を積ませて頂いて、楽観的な中にも覚悟と自信が発言や行動に出てきました。 例 何とかなる→何とかする

現地企業にインターンシップしたことが、ただ単に勉強するだけの留学でなく、社会経験を積めたとアピールし、人事の方から興味を抱いていただいた。そこから話が盛り上がり、和やかに面接を受けることができた。

一切英語ができない状況で留学にいったこと。そこからパーティーでコネをたくさん作りワシントン州の商務省でインターンしたこと。

課外活動で友人とクラブを立ち上げ、現地の学生を含め指導したことは面接で評価いただきました。また、法律の授業を履修した際、日本人は私1人で難易度も高く苦労したエピソードも、私の努力をアピールできました。

私は健康や食をテーマにおいて留学生活を送り、食に関する仕事を希望していたので、栄養学や自然療法の学部授業、スポーツ栄養のインターンシップ、課外活動ではクッキングクラスのアシスタントの話などすべてが活かしました。

-多国籍学生団体(FIUTS)での活動 -シェアハウスの管理人をしていた時の活動

理系出身でありながら、研究を続けずに違う分野を選んだ理由を説明し、主体性をアピールできた。

・マイクロファイナンスのNPOでの現地SME経営層との対談 ・ワシントン大学ラグビー部での経験

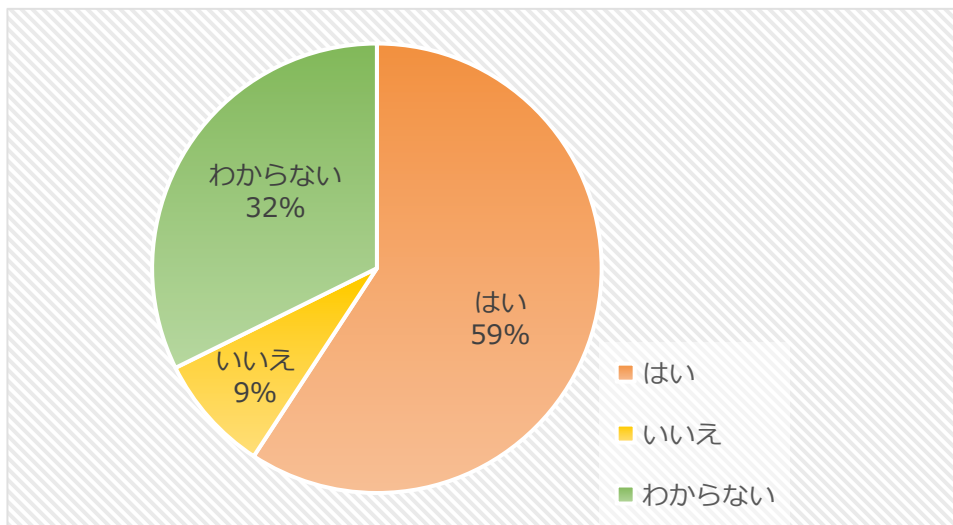
インターンシップという仕事の中で、何かをやり遂げたという経験談は、面接中に大変興味を持って頂けた。

IBPのインターンシッププログラムでUWの研究室で現地の学生と共に研究しており、一定の成果が得られたこと 英語力が向上したこと

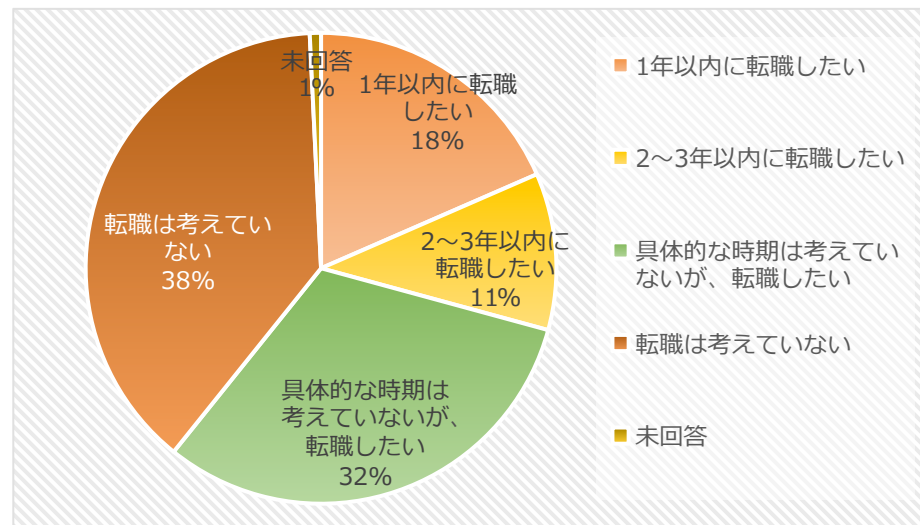
勉強、サークル、部活、バイト、ボランティア等、日本でできる全ての活動の枕詞に「留学先で」とつけられた事。それによって英語ができる事や、挑戦意欲・行動力が強い事が言わずと伝わった。それは限られた時間で伝えられる事が増えるという事であり、面接では有利に働いたと思う。

インターン先を自ら開拓し、そこで結果を出したこと。

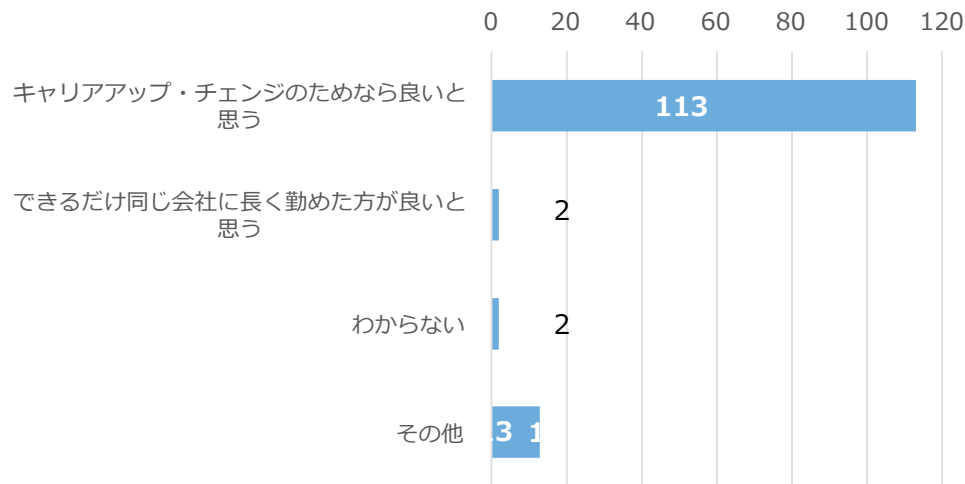
Q. 納得のいく就職活動ができましたか？



Q. 転職について教えてください。現在、転職を考えていますか？



Q. 転職する事に対してのお考えで、近い方を選択して下さい。



Q. 「その他」と答えた方：詳細をご記入ください。（200字程度）

エンジニアの場合多くの企業のシステム運用方法について知っている方が役立つため、

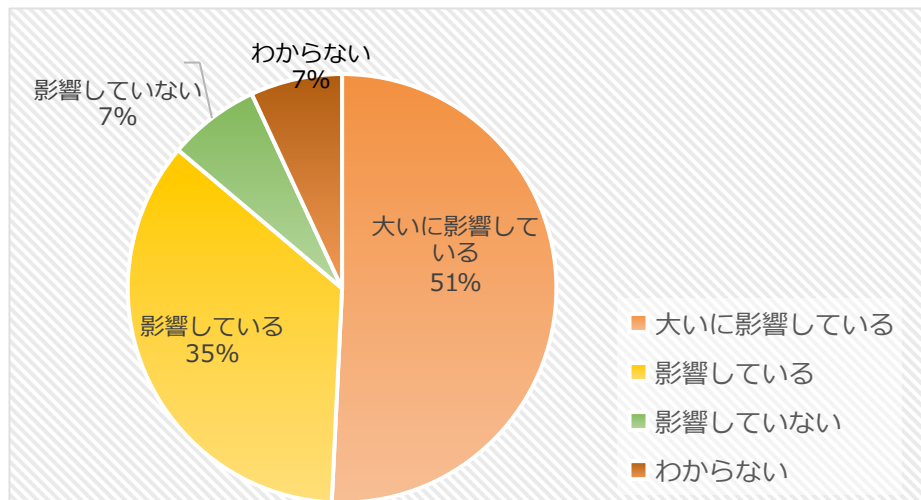
女性なので、結婚や出産などを考慮してくれる環境を重視したい。

人との相性と同じでも会社にも相性、マッチングがある。自分の価値観に近い人たち組織を見つけ、世に貢献する生産性を高めるために転職する。キャリアアップが年収のアップと捉えるのは偏った側面しか見ておらず、リスクがあると思う。

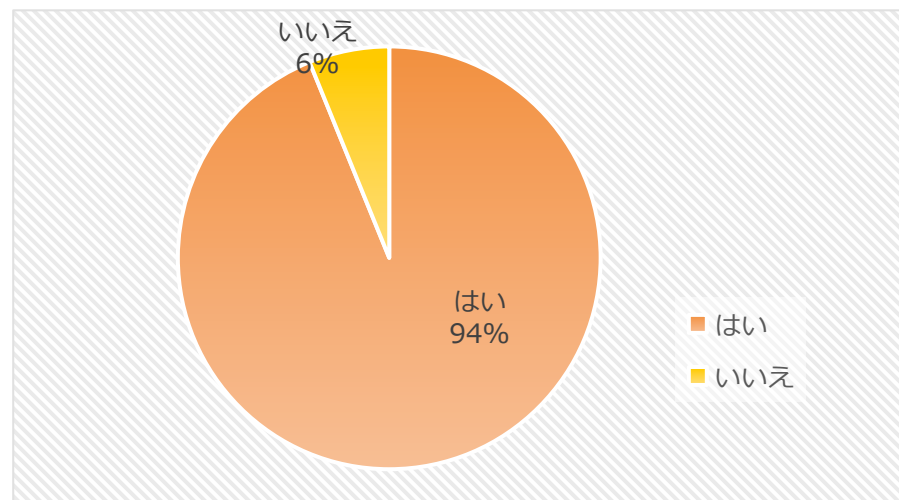
仕事の内容しかりキャリアしかり、とにかく働いてみないと分からないことばかりであると常々感じています。インターンシップの経験があっても、それはあくまで職業体験であり「食っていくために働く」わけではありません。実際に収入への考え方などはライフステージが変わるごとに変わると思います。ですので、働いたことのない学生時代の就職活動で「一生働く会社を見つける」というのは到底無理だと今は感じています。

最終的に転職するorしないに関わらず、転職活動を行う事は今の仕事が本当に自分に合っているのかを確認する貴重な機会だと思います。

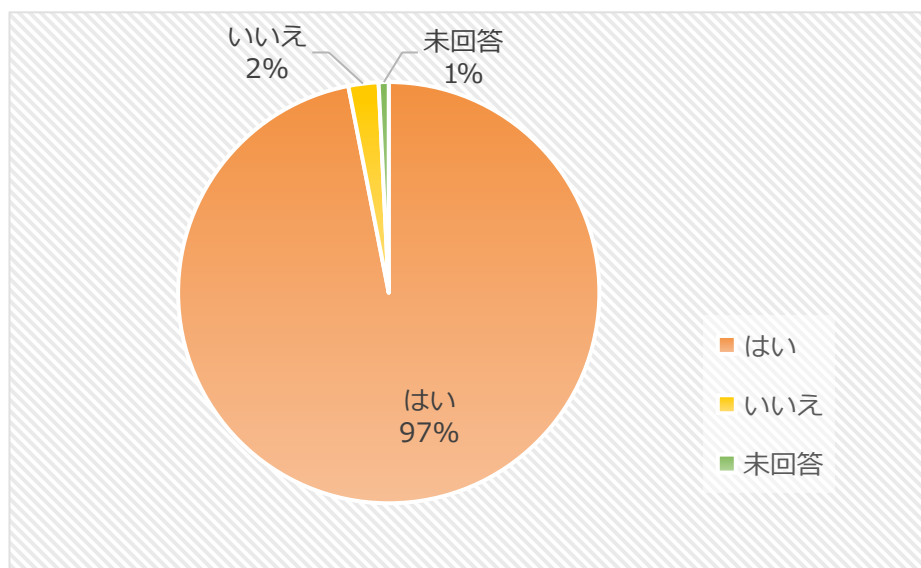
Q. 現在のお仕事を選ぶ上で、留学経験や留学を通じて得た価値観の変化が影響していますか？



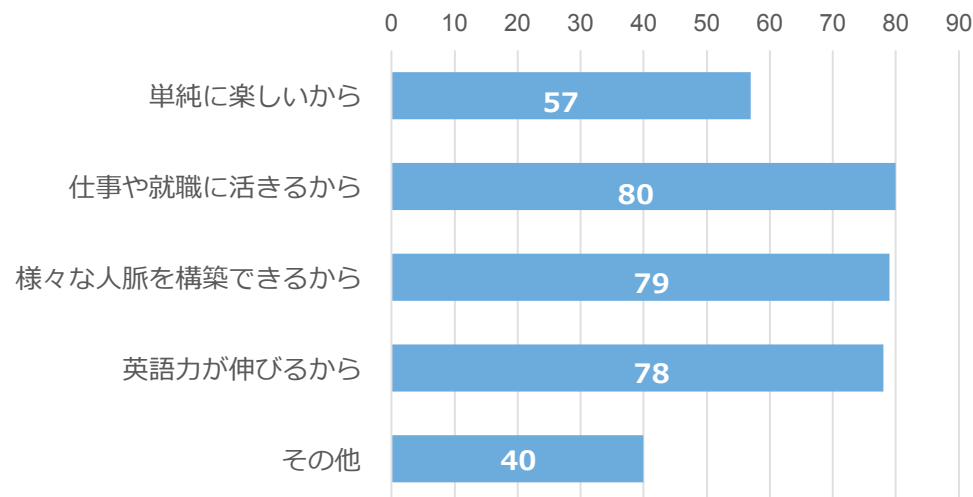
Q. 現役大学生に、在学中の留学を勧めますか？



Q. 留学をしようか迷っている方々に対して、留学を勧めますか？



Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。(複数回答可)



Q. 「その他」と答えた方：詳細をご記入ください。（200字程度）

就活や仕事という小さな枠ではなく、人生という大きな枠で考えた時に必要だと思うなら、まずは行ってみた方が良いと思うから。

視野が広がり、多様な価値観を身に付けられると思うため。

迷っているならまず経験してみることで、楽しいことはもちろん、辛いことも苦しいことも全て未来の自分の人生を豊かにしてくれると思うから。

日本のグローバル化はまだまだ世界と激しくギャップがあると感じる。これからの日本を背負う世代の方たちに留学は語学力が上がるだけでなくそれにプラスアルファの経験をたくさんしてほしいと思う。

自分の人生について新しい視点で考えられるから。

自分が生まれ育った以外の環境に身を置くことで、語学面だけでなく、人としても成長できるので。

様々な人脈にも繋がる話ですが、人種や宗教など多種多様な人々と話をする機会がたくさんあり、それぞれの考え方・価値観を目の当たりにすることができる。どんな人とも話ができるコミュニケーション能力が身につく、話の引き出しも増える。楽しいと思えるかどうかはその人次第ですが、やりたいと少しでも思ったことはやるべきですし、後々の後悔に繋がるかもしれない。

視野が広がるから。

経験として。住み慣れた場所を離れ、異文化に触れることは、その後の人生に大きく影響を与えると思う。

四年間ずっと同じ環境にいと、知らず知らずのうちに怠けてしまうから。（私個人の話でもあります。）

他国の人・文化と接することで、日本という価値観だけでなく、多角的に物事を考えられるようになるため。

アメリカの価値観を少しでも触れておけば、複眼的に物事を見ることができるようになるから。それがアメリカ留学の醍醐味であると確信している。

語学は必須。ただ、語学が伸びたことを得意げに話す方も見受けられるが、本当に大事なものはその後。会社でも言葉が話せるだけで全く使い物にならない人間もいる。本当の意味でグローバルに活躍できる人材とはどのような人材なのか、それを理解しなければ、言葉が話せるというところで止まってしまふ。ただ、留学はそれに気付く可能性を高めしてくれるから勧めるようにしてる。それも早いうちに経験しておくことに越したことはないと思う（その人に器がある、または潜在的に器があることをある程度見込んだ上で）

Q. 「その他」と答えた方：詳細をご記入ください。（200字程度）

自信がつくから

自分の頭で考えて行動し、成果を出すことを体験できるので

社会人にも1-2年間の休職留学制度や社費留学制度などはあるが、会社を休んで留学という点において否定的な風土があるため、難しい。特に若手に対しては、、、。(海外駐在に関しては好意的)。働きながら英語の勉強をするのも、定時上がりが可能なごく一部の会社に限られると思う。なお社内でイギリス留学経験のある社員を集めた交流会なども有志で行われているので、ネットワークは帰国後も広げやすい。

困難なことにさらされることは素晴らしいことだと思うから。

明確な目標が無くても留学したい気持ちが少しでもあるなら自分に正直になって行くべきだと思う。

多様な価値観を受け入れるようになる。社会に出るといろいろな人がいるが、それを学生のうちに受け入れられる素地を養うことができる。これだけは外に出てみないと育たないと感じるから。

単に楽しいことだけでなく大変な事もあるが経験としてのちに生きると思うから。

後悔しない人生を歩むため

特にグローバル企業で働きたいなら、語学以上に様々文化、個性受け入れることが自分自身が心地よく働いていくためには必要な場面があります。一度海外に出て、自分の常識に当てはまらない人々がいることを観て、いい意味で自分の常識を壊して懐を大きくしておくことは長い社会人生活の糧になると思います。

英語力はもちろん、海外での生活によって、考え方や生き方に少なからず良い影響が与えられると思うから。

精神的にも成長することができる点 いくつか海外で生活することになっても、この経験があれば、スムーズに順応することができる点

様々な人種の価値観、その中で自分がどうやって発信すれば伝わるのか分かるようになる。また世代や国籍を超えて得られる信頼関係の構築は社会人になって役に立つ。

それまでの自分の価値観から抜け出せるから

Q. 「その他」と答えた方：詳細をご記入ください。（200字程度）

物を考える視野が広がるから。

異国の文化や価値観に直に触れることができる。日本を客観的に見ることができるようになる。

学生という時間のある期間にしかできない経験で、得られるものは本当にかげがえのない経験 人脈 自信にもなります。1年2年卒業や就職が延びることは社会に出ても全くハンデにはなりません。

特に20代であれば、転職の際にも選択肢が周りに比べて大きく増えます。転職活動を通して出会う人達は普段同じ組織で過ごしているだけでは得ることの出来ない刺激をもらえます。

留学での苦勞を乗り越えた経験はその後の自信に繋がるため。

モノの見方や価値観が変わるから。こうでなければいけない、という考えが覆され、多様な考えを受け入れる許容範囲が広がるから。

人間として新たな価値を見出せるため。

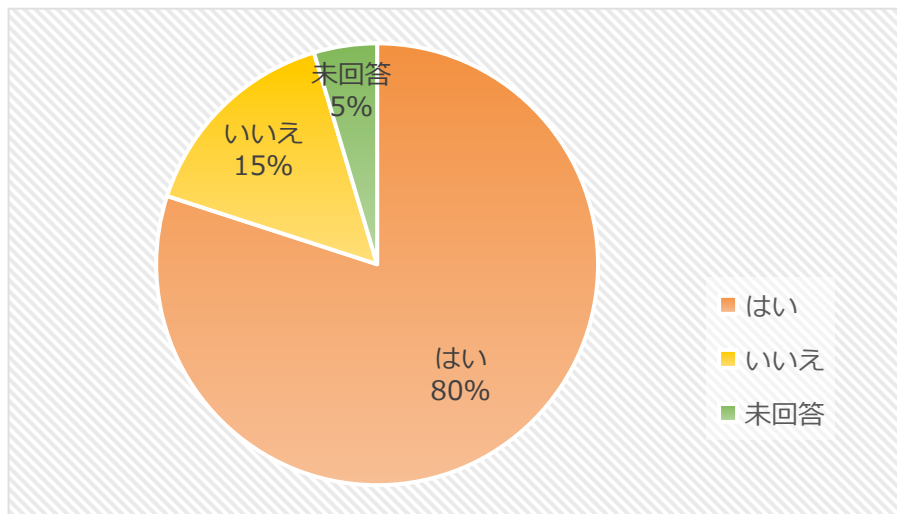
人生における経験値が日本国内にとどまるよりも大幅に増えるので本当にお勧めします！あとはじっくりと自分と向き合う時間もたくさん持てるので、人生にとってプラスになるとてもよい期間でした。

世の中の見方が180度変わるから

人生経験として



Q. 数ある留学スタイルの中でIBPの留学を勧めますか？



Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

留学に「ビジネス」という大きな軸を加えたいのであれば、IBPのプログラムを強くお勧めしたいです。学生と社会人は人生の中で考えても大きなステージの変化なので、頭で考えただけではそのステージで「何が重要なのか」を自分の肌で納得することは難しいと思います。その上で、海外の地で、ビジネスの現場に飛び込めるといのは、他のプログラムでは得難い経験で、自分の夢と現状の差を強く実感できる素晴らしい時間になると思います。

単なる語学留学とは違い、目的や目標を持ち効率的に過ごせる1年だと思うため。英語力だけではなく（英語力というよりもむしろ）社会で活かせるビジネススキル、人間力を養える点が魅力だと思うため。

それぞれに留学に対する目的はあるかと思いますが、多数の留学プログラムの中でもIBPは特に実践的であり、確実に有意義な経験を得ることが出来ると思います。私は英文科でしたので語学力向上が一番の目的でしたが現地での授業や様々なボランティアを通して自分の興味の幅が広がり、自身の考え方にも大きな変化を得ることが出来ました。また先日久しぶりにIBP同期会があり、様々な分野で活躍する同期に刺激を受け、今でもこうして互いに励ましあえる素晴らしい仲間が出来たことに感謝しています。共にシアトルで切磋琢磨した時間は本当にかげがえのないものだったと思います。

インターンシップができるから。帰国後もサポートが充実しているから。

インターンができるという点が就職についての知見を広げるきっかけとなるから。

Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

一年間という限られた期間の中で留学経験、インターン経験ができるから。当初は一年後の自分が想像できなかったがカウンセリングやセミナー、授業の中で明確に自分の変化に気付けた。

Ibpでは海外の留学に加え、インターンシップの経験ができる点について就職活動時に他者との印象が異なるため。

周りの環境も含め、やろうと思えば自分の行動次第でどんなことにもチャレンジできるから。大学と提携している交換留学では味わえない、もっと中身の濃い留学にすることができる。

留学に関して様々なフォローがあるというのが大きいと思うから。留学前の英語力の維持、向上のためにICCの英語クラスに通ったり、留学中は現地でのフォローを受けられたりできたのが良かった。

一年と期間はそんなに長くないけれど、その分ぎゅっと詰まった留学ができると思う。また、学部授業もあり海外のスタイルで勉強ができる環境もあるので、この先大学院など目指すきっかけにもなると思う。

自分の好きなことをできるから。自分の生活次第で英語だけでなく、情報収集力がついたり、人脈を広げることができるから。

単純に大学以外の職場を通じて社会を観れるから。

インターンシップなど様々な経験が出来ることや、現地でのサポートが手厚いため。

語学研修、学部授業の受講、インターンシップというバランスのよいプログラムで、生活・勉強・仕事をする上での英語力の基礎をまんべんなく築けるため。

サポートがしっかりしてるから

社会人留学だったので、転職活動の時履歴書に学校名が書けてよかったため。学生のうちに留学するなら他の留学スタイルもたくさんあると思う。

数多くの留学をした友人の中でも、インターンシップを経験したのはIBPの仲間だけであり、私自身その経験を誇りに思っているため。

現地でのサポート体制が素晴らしく、また同時期に参加するメンバーにも様々なバックグラウンドを持った社会人や学生がいらっしやり、その方々との交流も、非常に有意義であった。現地でのプログラムについても、語学力の向上のみならず、インターナショナル・ビジネスについても、基礎から学ぶ事が出来、更に現地企業でのインターンシップでは、日本国内での働き方とは大きく違う職務環境に驚きながらも、非常に多くの学びがあった。

ウェストミンスターでしたが、英語授業、学部授業、インターンまでできるフルコース的なところ。また、日本にいたら知り合えないような同期達とも共に頑張れるところ。帰国後のサポートやネットワーク。

Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

すごく楽しかったし、インターンシップが付いている事が、かなり魅力的だと感じる。

プログラム内にインターンシップが含まれているのは、オススメできるポイントかと思います。大学などによくある留学でも、自主的に現地でインターンを探すことはできますが、プログラムに組み込まれているので、結局インターンをやらない。という事にはなりえないため。また、語学学校→学部授業→インターンと自分が付き合っていく人間も確実に変化していき、仮にシャイで受け身だったとしても、多くの人と接点を持てる。現地のスタッフがとても親身で、今まで積み上げてきた現地でのコネクションを惜しみなく分け与えてくれるため。

ただの語学留学以上の経験が出来るから。

単純な語学留学だけではなく、インターンシップもあるし、何より、自主的に動くことでより充実させた留学生活ができるから。

IBPでは学部授業とインターンシップという二本立ての形式であり、幅広い経験が accrue する。通常の交換留学と違い、インターンシップでは現地企業に勤めることもでき、海外で働くとはどのようなことかが体験できるという点が将来のキャリアに役立つと思う。また授業のカリキュラムとしてある程度、余裕があるので、サークル、ボランティア、クラブ活動などの課外活動に積極的に参加できるため、個々人の意思により、どのような留学生活をおくれるかが決められる点が利点だと思われる。

その人がどのような留学を望んでいるかによっても違ってきますが、大学にも行きたく、インターンシップもしたいという希望がある方々にはお勧めすると思います。

留学前、留学中の安心のバックアップがあり、頼れるスタッフの方々がいる。

・単なる語学留学でなく、ビジネス留学であるため、閉ざされた環境にいる学生でも社会に対して意識を傾けるきっかけになる点  
・楽しさだけでなく、厳しさや困難も多く、それが自身の成長に繋がる点  
・IBPの仲間には意識が高い方が多く、良きライバルとして切磋琢磨し合える点  
・IBPの仲間同志で人生観や仕事観を左右するような影響を及ぼしあうことができる点  
・またそういった仲間と、留学後も良き仲間として繋がり合い続ける点

学部授業とインターンとの二部構成なのでメリハリがあるから。国内、海外問わず、実際に一度も働いてみる事がキャリア観に良い影響を与えると思うから。

インターン経験を共にできるから。

治安が良い、留学サポートが充実している点、留学先でインターンを実施できるため。

数多の留学スタイルがあるため、分からない。

私は1年間の休職制度を利用してIBP プログラムに参加しました。1年間と決まった時間の中で学部の授業を受けられる上、オリジナルのビジネスの授業が受けられるかなり作り込まれたプログラムだと思います。大学生だけでなく社会人にもお勧めします。

Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

1年という設定された期間の中で、語学学校からインターンまで自分自身の成長も段階を追ってわかるため。

語学研修を目的とする一般的な留学に比べ、インターンシップという目標が定められていることでより成長することができたから。またIBPプログラムの内容が就職に関して有利というだけでなく、働くことについて考える機会をくれた点がとてもよかった。海外で働かれている方との交流イベントを通じて人脈広げることができ、生の声をまじかに聞くことができたので、自分の将来にとってもいい影響を与えてくれたと感じている。

高いけど、スピーディーに手続きが済ませられるから。また、不安定な部分もあるが、既存のルールに厳しく従わせる風潮がないので、学生の意見にも対応してくれる場合があるため。

・現地の学生と授業を受けられる(ベルビュー) ・インターンシップが出来る ・同窓会ネットワークがある

インターンシップの経験は学部生間の比較では若干のプラスアルファにはなるが、シンクタンク・コンサル業界においては、それよりも海外の大学院を出ている方が評価される。

インターンができる

海外でのインターンシップ経験は就職活動における面接での印象が強いから。

留学することが目的ではなく、留学して何かを成し遂げることが目的に出来るプログラムだから。

IBPは、いろいろな経験をできるという点で充実していると感じます。インターンをするというのは、学生にとってとても自信になり、アドバンテージとなると思います。

インターンシップの経験は非常に有意義だった。結果的に大学のサポートは殆ど借りずに自力で勤務先を探すことになり苦労したが、その行動に至ったのも、プログラムの中で予めインターンシップを行うと設定されていたからこそ。また、大学とのやりとりやビザ発行に関するサポートのおかげで、留学を決めてから実際に行くところまで、短期間で実現できたのも良かった。熱の冷めぬうちにすぐに現地へ行けることは学習面でもかなり重要だと思う。一方、やはり通常のプログラムルートに乗っているだけでは日本人が多く、日本語が飛び交う環境は避けられない。自分でかなり意志を持って動かなければ、英語漬けの生活は実現し辛いとは思う。

意識の高い仲間と切磋琢磨できる 英語以外で学びになることが非常に多かった

色んなカリキュラムが凝縮されているため。

Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

ただ留学するよりも、ビジネスの現場で役立つ英語力や学んだことを活かすインターン経験、また自身の専攻を深める学部授業が、バランス良く構成されたIBPプログラムは自身に合っていました。やはりバイトやインターン経験等大きな社会と関わりのないまま社会人になると、自然とやはり責任感や行動力、判断力、場の空気の読み方などに違いがでると感じます。現在海外で実際に働いて思うのは、まだまだ日々勉強の毎日ですが、あの時プログラムに参加したのは無駄では無かったと思うため、IBPをオススメします。

やはり学部授業を取れたり、インターンシップまで体験できる留学体系は他にないため。

一年間で授業だけでなくインターンなど様々な取り組みができるから

インターンシップも体験できるから

目的をもってきている人が多いから

インターン探し、レジュメ作成、面接をサポートのもとで自分で挑戦する機会があるのは実践的でよいと思います。

学部留学だけでは物足りないと思発前に漠然と思っている人、将来海外で働きたいと思っている人には、チャレンジングで今後のキャリア選択に生きる経験ができると思います。

IBPの留学は、インターンシップが出来る様に英語力がアップするカルキュラムなのが魅力です。大学生の時にIBPを知っていれば..と思います。実績や参加者の体験談を読んでもICCはしっかりした機関なので、自信を持って人に勧められます。

インターンシップの経験が大きい。しかし、必ずしもIBPである必要はない。自分が留学を通じて何をしたいのかを中心に考えることが大切。

IBP（ベルビューカレッジ）のプログラムでは、日本人ではない他の学生と同じ授業を受け、レポートを提出したり、クラブ活動に参加したりすることができたので、とても良い刺激になりました。語学留学や、日本人だけで授業を受ける留学よりも力がつけられると思います。前期は少し物足りなさを感じていましたが、レポートの書き方など基本的なことを最初に学んでいたおかげで、後期の学習もスムーズに行えたと思います。

留学エージェントを使って一年程度の留学をした場合、多くは語学学校のみが多いです。他方、IBPの場合は学部での授業受講やインターンシップなど、短い期間で多くの(そして基本的には語学学校に通うよりタフな)経験が出来るため、厳しくてもより幅のある経験がしたい人には有益なプログラムであると思います。

Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

専門家・研究者を目指すなら大学院留学もいいと思いますが、他の仕事で活かせるスキルを身につけたいのであれば、IBPの留学プログラムは効率が良いと思います。学びたいことを大学で学び、インターンシップで実践するステップが組まれているので、仕事でどう知識や英語を使うかまでイメージができるところが魅力だと思います。

ただ学校に通うだけでなく、仕事に対しても意識できる留学だと思うから。集まっている人も、他の留学に比べたら面白い人が多いと思う。

就職活動において、留学経験者は数多くいるが、現地でのインターンシップ経験者は少なく、話に興味を持ってもらえるから。

信頼できる会社で安心してお任せできる 現地の大学の授業が受けられる インターンも経験が出来る

学業に限らずインターンシップを通じて海外で働く経験ができるため。

学部授業、インターンシップだけでなく、ボランティアやローカルとの交流会など非常に充実した内容で、将来のキャリアで迷われている方にはぜひお勧めです。

やりたいことをできるし、インターンシップは学ぶことが多いから。

やる気、目指すキャリア次第で選べる学位や職務経験の幅を広げることが出来るため

経験の幅が非常に広く、多くのことを身につけることが出来る。特にプレゼンスキルやインターンができるのは今後のキャリア上非常にプラス。

出会える人の質が高いから。

留学開始時から1年という時間と、大まかな見通しがプログラムで建てられていることで、ある程度統制のとれた時間が約束されています。さらに、どうなりたいかわからない、何が目標かわからない、という人にとっても、プログラム以外の興味や経験 目的を探すこともできるとても恵まれたプログラムだと思います。

ビジネスを学べ、現地でインターンシップに参加出来るのは貴重な経験だから。

遊び、勉強、課外活動等、自らやりたい事を選んで何とかしようとしていけば、サポートを受けたい時に助けてくれます。



Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

海外インターンシップ経験が一番の理由です。国内でもインターンシップ自体が徐々に一般的になってきていますが、1日間～など、短期のものが主流となっており、本来の就業体験としてのインターンシップから離れてきているのが現状です。そんな中、3ヶ月程度の海外インターンシップはそれ自体が経験としての差別化要素となりますし、体験を踏まえて自身のその先のキャリアを考える機会を持ついい機会となります。また、慣れない外国生活を行う上で、IBP参加者同士で必要な際は助け合えるのもメリットの一つだと思います。

インターンシップがあるから

留学だけでなく、インターンシップを経験できるから。英語でビジネスメールを書くことなど、今の職場で非常に役に立っている。ただ、大学前半の授業で、日本人が多数のクラスには少し残念な気持ちがあった。これでは日本で英語を学ぶのと変わらないので、何か改善策を考えた方が良いと思う。

現地の学校での授業とインターンシップ、両方ができることが一番の魅力です。また、学校の先生、ICCのスタッフによるサポートもしていただき、安心して滞在することができます。

語学研修・学部授業・インターンシップの3本立てはなかなかないし、出発前のフォローも細やかで安心して出発できました。IBPプログラムに参加しなかったら今の自分はないし、希望の仕事にも就けて、いまま楽しく働き、満足した人生を送れているので、本当に感謝しています、ありがとうございました！

英語、学部、インターン

海外の大学で授業だけでなく、その国のビジネス習慣やスキルを学べ、さらにインターンシップまでサポートしてくれる所は他にないからです。

大学での勉強だけでなく、インターンシップも経験できるから

周りに日本人が多い 大学の留学制度があるならそちらをおすすめする

ただ単純に「留学」というものだけでなく、それを越えた ビジネスをというものを身につけられるから！これは将来絶対に役に立つ。

数ある留学のスタイルから、自分に一番あったやり方を探して欲しいので特定の大学を勧めることはしないと思う。

自分の時間が多く、のびのびと自分の好きなことを追求できるので。

インターンシップの経験ができることは大きな強みだと思う。

英語だけでなく、それを生かして実践的なことを体験できるから。

Q. 「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（300字程度）

学部授業・インターンシップと幅広い経験ができるから

興味のあることに何でも挑戦できる環境だと思うため。

学校の交換留学にもメリットデメリットがあるが、留学中取り組める事の自由度がIBPの方が高く、より多様な経験が出来たと思う。一方でコスト面などデメリットはあるが選択肢の一つとしては大いに勧めたい。

自分で好きなようにインターン経験を創る経験ができること。

インターンシップを経験できるから。